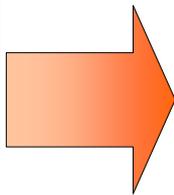


佐渡米通信 こめ〜る 2月号



この時期の佐渡の田んぼでは、冬でも水生生物が生きられるように、またトキが冬でもエサを探れるように田んぼに水を湛める「ふゆみずたんぼ」を実践しているほ場を見かけます。冬に水を張っていれば、大雪でもトキがエサを探せなくて困ることはないのです。

2月25日現在、佐渡では例年よりも積雪量が少なく、雪が積もるような日は数日しかありませんでした。トキにとっては、餌を探りやすく過ごしやすい天気であったとも言えるかもしれませんが、このまま暖冬・小雪で春になってしまうと、夏は水不足になるのではと、少し心配しています。

先月、島内の各集落において、「とうらやさん」という行事が行なわれました。この行事がいつから始まったかは定かではなく、(全国には似たような行事もあるらしいですが) 名称についても「賽の神」や「とうろやさん」「どんどやき」などがあり、集落によって呼び方も様々です。毎年、小正月の前後に、集落ごとに30~70名ほどが集まり、神棚に祀った松飾りや下げ紙、昨年神社から頂いたお札やお守りなどを持ち寄って、1か所に積み上げたものを燃やします。この煙にあたり、焼き終えた炭をおでこに塗ったり、残り火で焼いたお餅やスルメを食べることで1年間健康でいられるなどと言われており、各集落では無病息災や五穀豊穡を祈願していました。



佐渡の農業がより発展していくために公開討論の場を設けようと、23日トキのむら元気館で「佐渡農業振興大会～朱鷺と暮らす郷づくり推進フォーラム～」が朱鷺と暮らす郷推進協議会などの主催で開催されました。

当日は、島内の生産者の方々を含めた約200名が集まり、聴衆者は熱心に講演等に耳を傾けていました。

フォーラムにおいて、『「食」のブランド化による農業と観光の連携』についての講演があり、単にブランド化を進めようとするとお金ばかりかかってしまい、産地の思いは通じにくくなってしまいます。誰に向けて宣伝し誰にその食を食べて欲しいのかのターゲットを絞ることが重要だ、とのお話がありました。

編集人：佐渡農業協同組合
営農事業部米穀販売課 渡部・古城(ふるぎ)
beikokuka.hanbai@ja-sado-niigata.or.jp

発効日：平成26年2月